

NO. 104

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724・83・4653

六甲金山縦走タイムトライアルに

参加して

会長 遠健三

明日は雨り知らず、天気予報はすべて雨となつてい
る。条件はみな同じ、雨ごも走ろうと真鍋さんと大
会の前日、神戸市須磨にて宿泊する。素泊一泊、四
二の雨、早速前祝にも、宿舎近くの居酒屋で一杯
とする。そこで明日に備えての打合せをする。水筒、雨具
食料、服装等々、私のアトバイスとして、大配分を
考へること、先は長い、前半を飛ばすのも良悪、下
りまた平地では、自分の走れる力をセーブしないこと、
走れるところは走ることである。では明日は頑強さ
と私は心に思う。負けたくない人がある「自分には
キリアがある」「ヒギナーに負けてたまらぬ」と三
年前のタイムより好タイムにて走りたい「大変な自
信である。

結果はタイムこそ、前のタイムより良かったが真
鍋さんにも負け、マークしていた東京の女の子にも
遅れをとる、残念残念である。昨年末よりのトレ
ーニング不足のたまりである。タックソフワイルと
レか言いがたい。真鍋さんは「この大会は、我が
生涯の思い出になる、有意義であった。アップ

ダウンの連続、走れるところは走れといわれた
が、そんな生優しいものではなかった。途中足
を痛め、何時かのオレサンに捕まると思ひ、
気が気でなかった。縦走、恐ろしかった。でも
楽しかった。今度もマラソンだけでなく、登山も
行い、トレーニングを積み、再度挑戦したいと、
彼はよく頑張った、立派である。

ここで特筆せねばならぬことがあります。
応援に梶本先生が来て下さること、「後援
に来て下されば、多少減りがかる。走りぬぐ
折角ですが、好意は謝す。応援結構、来て
下さらぬようにと、石橋さんを通じて辞退し
たい」と言う。真鍋さんは「それでも梶本先
生は来て下さる。ブル地点の宝塚塩尾寺
で待っていて下さる。そうなら、よかった。それ
なら、私達の励みになる。頑強さなくちあ
ブルすれば、梶本先生と三人で執杯しよう」と
ファンカブをブル地点の荷物の中に入れる。

このレズは先に月誌「ランナーズ」にも紹介され
ました。日本一ササガレズ、この頃、日本一とい
うレズが多い。日本一ドな高登山競走、京都
のスーパーウルトラマラソン、トラサロマ湖100
キロレースとか、しれ、これらの大会もハードな
昔ながらのレースに違ありません。それを全国から
好き者が参加し、よく頑張る、皆真険である。
真鍋さんも私も、途何程か「自分が一体何をし
ているのか」と山う、考へる。こんなレース、タイ
ムはもうどうでもいい、完走すればよいのだと思
えてくる。そうなら、走る意欲がなくなり皆か

う追抜かれる、そんなとき、ブル地点で梶本先生は
私達をいまいましかと待っていて下さる。頑強さ
なくはと、勇気を奮い起す。お陰で充分な
手応えがあり、完走できました。紙上を借りし
て、厚く御礼申し上げます。

かくして六甲金山縦走が終了しました。思えば
あのアップダウン、厳しいレースでした。でも、真
鍋さんと終ってみて、これを縦走の醍醐味だ
と走っているとき、何度か思った。なあ、と許
し合いました。楽しかった、良かったと思いま
す。今回参加された皆さん、来年は参
加してほしいが、初春の一日と大いに楽し
みましょう。

六甲金山縦走

エピソード e p i s o d e

ゴールまで後七キロ歩行、一時間十分と標示
がある。山道のためか、ロングタイムである。こ
ろ多分ハイキングコースの標示であろう。自分が走
ているのである。こんな時間でもたもたするわけ
にはいかない。自分が四十分でかたをつける。自分
に言い聞かせ、自分の設定したゴールの目標
タイムに向けて走る。

カンバ、カンバ、カンバ、と声を出し、他人が聞
いていたならば、このオヤサン、何を言っているの



阿保がそれとも呪文を唱えているのか」と思う
 であろう。私は構わない。しかし前後の人がお
 らない。そこで私はいらぬにやならん、カンバと走
 る。そのうち私の後にピタッと人がついて来る。
 それども私は構わない。自分の目標タイムに向けて
 気合を入れる。カンバあるのみ、カンバ、カンバ間
 もなくゴール地点だ。はいと私は後を向くと、私
 より若い青年だ。そこで私は「お先にどうぞ」と
 道を譲ろうとする。その人は「あなたのお陰で私
 は休むことなくここまで来られた。私はあなたに
 後をつけて来ただけです。あなたを道抜くことは
 出来ない。どうぞ続けて走ってください」と声あり。
 「では私はゴールに向けて走る。微塵も遅
 しではありませんか。」

ゼッケン二百十四番、ゴールとゴール、テープが張られ
 応援の観本先生、先にゴールしていた真鍋さんに
 迎えられて、ゴールする。そして三人であり、ワンカ
 プで乾杯。美味しかったこと、生涯の思い出とな
 ります。

カンバおじさんより



「ジヨグ・コーナー」

「マラソン」と掛けて、何と解く。

「曲がつた木」と解く。

心は「走ら(柱)にやならん」。

「達会長の好物」と掛けて、……。

「ファウスト」と解く。

心は「下手(ゲ)テテのもの」。

「栗野原副会長、阿蘇SOXマラソンに挑戦」と掛けて、……。

「妾に手を焼く男」と解く。

心は「完走(簡素を)折る」。

「ハイレグのランナー」と掛けて、……。

「曇り空」と解く。

心は「そのうち、降るっち(フルチ*)」。

「石橋事務局長の悩み」と掛けて、……。

「背中の蚤」と解く。

心は「痒いし、掻いて(会誌、書いて)ヨ」。

川柳などもいかがが……。

ウルトラC

花見ジヨグ カラオケ音が とおせんぼ

クロカンは 上りで止めて 山菜摘み

向い風 暑かろうと いらぬ世話

ハイレグが 通るといつも 大集団

電車待つ 背広の人が ストレッチ

難度B

お知らせ

一例会日

四月二十二日 午前九時

泉南市 体育館

一コース

皆と相談して決める

遠・例会日、またまた欠席
 小崎さつき マラソン 矢多加
 勝手にすみません



六甲全山縦走タイムトライアル完走記

3月25日 日曜日 午前6時須磨浦公園駅スタート会場 昨夜からの雨は上がったが、空はいまにも雨が降りだしそうな気配。背中のバッグに詰め込んだ弁当とレインスーツも緊張のためか重さも感じない。

僕の横では、準備万端でこのレースに臨み、虎視眈々と8時間台を狙っている“超人逸会長”が僕を挑発してくる。会長は僕を先に行かして、ばてさせてどこか途中で抜き去るという作戦らしい。『その手には乗るものか、マイベース マイベース...』 そんなことを考えているうちにスタートの笛が鳴り、そろそろと人の群れが動きだした。

いきなり急な登りが続くが順調に登りをこなして行く。15K地点の街の中を走っていると、バイクに乗ったおちゃんが後ろの人に『どこからどこまで走るんや』などと話しかけている。『須磨から宝塚まで52K』と答えると『ひえー ようやるわ』と行って走り去って行く。ほんまに“ようやるわ”である。僕は、山においてはまだまだ会長の言うようにビギナーであるが、登山とは本来歩いて登るものであり、自然を肌で感じながら楽しみながら登るものであるはずでコースタイムを何分縮めて縦走したなどとスピードを競うものではないと思っている。おそらくこのレースに参加した人の大半はそう思っているに違いない。しかし、また自分も含めてほとんど大半の人が、自分の限界に挑み、得難いほどの満足感を得るために走っていることもまた事実であると思う。

そんなことを考えながら、いよいよコース中最難関の摩耶山越えだ。その頃になると、いよいよ体力も限界、登りでは1歩を出すこともままならずその度に立ち止り、下りでは右足が靴づれ、これをかばって左膝を

痛めカニのように横歩きで下る始末。その間、何人の女性ランナー、何人の年配登山者に道を譲っただろう。ほとんどこのレースにむけて練習をしなかった報いだろう。

その頃から、ひたひたと後ろから追ってくる会長のことが気になりだし、よく似た人が来ると、どきどきとする。こんなところで捕まえられては例会で何を言われるかたまったものではない。その後は、見えざる超人逸会長の影との闘いとなった。

やがて六甲最高峰を通過、かつてドライブに来たときに目になじんだ風景になぜかほっとした。また、レストラン前でたむろしている女の子、アベックの前を足を引きずりながら汗まみれで通り過ぎるときに、珍しいものでも見るかのように見られたとき、何かてれくさいような気分と同時に“俺ら須磨からここまで山のなか走って来たんやぞ”といわんばかりのへんな優越感を感じたのは僕だけだろうか。

そして、レース終盤の東六甲縦走路にさしかかりボロボロの体にむち打ちながら歩いていると、ある男性登山者にすれ違いざまに、『あと500メートルですよ。ガンバッテ』と声をかけられた。レースが山道のため、距離感が全くつかめず、また先が見えないためゴールが目前に迫っていたのがわからなかった。最後の急な下りを左に曲がると目の前にゴールが飛び込んで来た。うれしいことに女性2人でテーブルを用意してくれていた。初めての経験である。何とも言えない気分でテーブルを切った。そして、応援に駆けつけて下さった梶本先生とガッチリ握手。最高の気分です。逸会長のゴール後、3人で回し飲みしたワンカップ大関の味、今でも忘れられません。

最後に、わざわざ宝塚まで応援に駆けつけて下さった梶本先生、ありがとうございました。来年は、ぜひ一緒にあのゴールの感激を味わおうではありませんか。

（い豆島オリ-ブマラソン 全国大会参加方法）

とき 五月二十七日(日)

ところ い豆島坂手港町営倉場

種目 ① ハーフマラソン
② 10キロ
③ 5キロ

参加料 三,〇〇〇円(弁当料含む)

申し込め切 四月二十日です。

(交通)

大阪(弁天埠頭) — 坂手(廣西汽船)

住 名	8:30	12:50
	15:00	19:30
復 名	20:00	15:40

料金片道 1,950円 (割引あり2割)

(宿泊)

旅館 7,500 予約金 1人 2000

民宿 5,500 " "

宿泊は走ろう会々員民宿を予定、同じ部屋で宿泊、そのため一括申し込みします。

申込書 走ろう会事務局 泉南スポーツ社にて 列します。

